

更なる“新小田原高校”卒業生への情報拡散を

3組 故根岸俊郎内 根岸(旧姓・石塚)幸子(城内高校 13期)

小雨にみまわれる三寒四温、天候も不穏なる昨今ですが小田高 11 期生の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。佐々木洋さんには、過日(1月26日)こゆるぎ座の演劇「唐人お吉」観劇のご手配をいただき有難うございました。瀬戸松子さんとも一緒に、佳き一日を過ごすことができました。終了後のコーヒータイムの小田原駅前「ういろう」での歓談も楽しいひとときでした。ありがとうございました。

せっかくご用意いただいた以下の小田高 11 期会ホームページ 3 部作のコピーも、瀬戸松子さんのご都合があったため、ご予約いただいていた新小田原城から箱根口への散歩①のご案内も、その後の懇親会での②③についてのご説明もいただけなく終わってしまったのが残念でしたが、後刻読ませていただいてノーパソコン族の私、「こんな素敵な高校同期会ホームページもあったんだ！」と大変な遅れ馳せですが感激しました。

- ①「知っていそうで知らない小田高エリアめぐり 新小田原城から箱根口へ」
- ②「花の言葉に耳寄せて」 Part1-14
- ③「天国におられる榮憲道兄と市川陸雄兄へ」

私自身が優しく歓迎されるのが嬉しくて、数多くの城内高校卒業の新小田高生を小田高 11 期会主催の講演会や“個”展にお誘いしたのですが、殊に、小田高 11 期会の立ち上げに当って佐々木洋さん(3組)と協働されたという海野尚光さん(7組)の奥方であり、もう一人の協働者である井上久嘉さん(1組)の妹さんでもある海野(旧姓・井上)恵美子さんが参加された時には、故人となられている海野尚光さんと井上久嘉さんを偲ぶ佐々木様の姿がとても印象的でした。

思い起こせばおよそ 65 年前、大学生時代の真ただ中、小田高 11 期生と城内 13 期生の間には双方 5 人ずつの純真な交流がありました。西湖でキャンプをしたり、私の実家のある前川のみかん山の散策をしたり、お正月には百人一首会を催して青春を楽しんだりするグループ交遊でしたが、亡夫・根岸俊郎を含めた茂登山東一郎さん(2組)、青木三郎さん、川上尚久さん、望月郁文さん(3組)の小田高健児の皆さんはみんな天国に召されてしまいました。当時の面影を懐かしく思い出しながら小田高 11 期会活動に参加させていただけたのも私にとって大きな喜びでした。

先日の小田原駅前「ういろう」での歓談の際に、私たち城内高 3 年同級生が制作した「手紙による同窓会」をお見せしたところ佐々木さんは「実際に会うことのない紙上クラス会をこんなにきちんと小冊子にまとめられるとは大したものだ！」と驚かれています。更に、その出稿者の名前の中に、私や前述の海野恵美子さんの他に、澤村恭正さん(2組)の妹の吉沢紀子さん、遠藤紀忠さん(3組)の妹の島田祐子さん、葛岡舜次さん(7組)の妹の木村千鶴子さんの名前が含まれているのをご覧になって、“新小田原高校”メンバー間の交流関係の広さに改めて驚かれた様子でした。小田高 11 期会が解散してしまったというお話をお聴きしてとても寂しい感じがしましたが、今も活動を続けている小田高 11 期会ホームページ(Web11)の力をお借りして、一層幅広く“新小田原高校”メンバーに情報をお伝えしていかなければと思っています。

私は、城内高校 9 期生でノンフィクション作家として活躍されている新井恵美子さんに親しくいただいています。最近発行された「約束の海」は小田原を舞台にベトナム独立運動指導者と医師・浅羽佐喜太郎の友情を描いた小説ですが、故望月郁文さん(3組)経営の小田原保育園ご出身で「小田高 11 期生の“個”展」にも来られたことのある小田高 35 期生の小田原前市長・加藤憲一さんが熱のこもった巻頭言を書かれていますし、斎藤良夫さん(7組)が制作に当たっていますので、まぎれもなく“新小田原高校”卒業生の共同制作物なのではないかと思えます。今回 Web11 への出稿の機会をいただいたのを機に、この新刊図書情報を含めたすべての関連情報ができるだけ多くの“新小田原高校”卒業生の元に伝わりますようお祈りしています。